

さんぽくまちづくり通信

第 5 号

発行 山北地区まちづくり協議会

発行日 平成 25 年（2013 年）5 月 15 日

事務局 村上市 山北支所 地域振興課 自治振興室

（住所）〒959-3993 新潟県村上市府屋 232

（TEL）0254-77-3111 （FAX）0254-77-2217 （E-mail）s.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp

まちづくり協議会2年目の春…



実りを期待して今年も地域づくりの種をまきます

25年度通常総会が終了しました

4月8日（月）さんぽく会館を会場に平成25年度山北地区まちづくり協議会「通常総会」を開催しました。

「まちづくり協議会」の理事（集落総代、各種団体の代表者等）と委員の皆さん80名の出席のもと、第1号議案「山北地区まちづくり計画」、第2号議案「平成24年度事業報告・収支決算報告」、第3号議案「平成25年度事業計画（案）・収支予算（案）」の3つの議案について審議をいただき、すべての議案について原案どおり議決をいただきました。

今年度は村上市からの

『まちづくり交付金』が増額され、「まちづくり協議会」の予算も1,070万円を超える大きな額となりました。

この貴重な予算を有効に活用して、これから「まちづくり協議会」の委員の皆さんが中心となってさまざまな事業を実施する予定にしています。

「まちづくり協議会」の活動は山北地区の皆さんが“住んでよかったと思える地域（集落）づくり”のために行うものです。大勢の皆さんに事業に参加いただき「住んでよかった」を実感していただければと願っています。



一年間の活動の報告などを行いました

身近な地域づくり実践者と縁者の声から

山北地区の課題と魅力を再確認



3月17日（日）さんぽく会館で「地域づくり楽習会」を開催しました。地域づくり団体の実践事例紹介やパネルディスカッションのほか、休憩時には山北の「食」をテーマに活動している「さんぽくごっつお物語協議会」の皆さんから山北の食材を活かした「一服お菓子」の提供なども行っていただきながら、参加した約100名の皆さんと山北の地域づくりについて楽しく学び合いました。

パネルディスカッションは「私にとって山北とは」をテーマとして、山北地区に縁のある4名の方々からそれぞれの視点や体験から山北地区の魅力、課題などについて語っていただきました。

4名の方々の発表から見てきたものとは・・・？



鈴木一弘 さん
新潟日報編集局記者

平成8年から10年まで新潟日報村上市局に勤務。取材を通じて山北の地域づくりを県内に紹介してきました。「赤かぶ漬け」

が大好きで毎年山北を訪れる山北ファンでもある鈴木さん『地域おこしで大切なことは、地域に住んでいる人が地域の魅力に気づくこと、活動を途切れなく継続させること』と、地域づくりへのアドバイスを語っていただきました。

小田智美 さん
県少年自然の家所長

平成22年まで山北中学校の校長として勤務。学校と地域の連携に積極的に取り組み、現在も山北地区の地域づくり

活動へ自ら参画するなど、山北との交流を続けている小田さんは『ふるさとに誇りを持てる子ども達を育てて欲しい。学校も子ども達も地域の一員』と、学校と地域の信頼関係の重要性を語っていただきました。



野原和歌 さん
（株）ノバレーゼ広報宣伝
ディビジョンマネージャー

会社のCSR（企業の社会貢献事業）活動として平成23年度から山北地区の農家のお手伝いなど

のほか、地域活性化への取り組みの事業提案なども行っている野原さんは『私たちの会社の持っているノウハウを山北の地域づくりにぜひ役立ててほしい』と、山北の地域づくりへの協力とともに企業と連携した新たな取り組みへの可能性を示していただきました。

中村健太 さん
新潟公務員法律専門学校1年（当時）

今川出身の公務員を目指す専門学校生。インターンシップ（職業体験）として山北支所自治

振興室の業務も体験。地域づくりに関心を持つ中村さんは『一次産業を活かした体験型地域づくりを提案。今は自分のできる「友人に山北を宣伝することから」始めたい』と、意欲を語っていただきました。



編集
後記

田植え真っ盛りの季節ですが、田んぼ仕事といえば昔は家族や親戚、ムラのみんなで協力しあってやるのが普通でした。子どもには子どもの仕事があり、じいちゃん、ばあちゃんにもそれぞれ役割がありました。おいしい米づくりの第一歩は一緒に協力してやることからでした。地域づくりも「自分にできることから」、「参加することから」始まります。まずは、参加するという第一歩から始めてみませんか。

